

令和7年度 横浜旭陵高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年5月24日(土)10:00～12:00

2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室

3 出席者 学校運営協議会委員:5名 (若月様、川崎様、渋谷様、久保様、大和田様)
学校関係者:10名(管理職・総括教諭他)

4 内 容

○学校運営協議委員 委嘱

○出席者紹介

○会長・副会長選出

会長 PTA会長 川崎様

副会長 校長

(1)校長挨拶

現在は1年次生がいない状態。2、3、4年次生と生徒が減ったことから、県の規定により職員の数が減り、来年度はもっと減ってしまう。

限られた人員ではあるものの、イベントや、授業をしっかりと行うことをミッションとしてがんばっていく。

現状、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。5月の授業見学月間には、管理職も授業見学を行い、生徒に向き合った丁寧な指導を感じた。部活も同様に、一生懸命、きめ細かい指導が見られる。生徒も限られた環境で活躍している。

(2)令和6年度学校評価及び令和7年度学校目標について

・資料2:昨年度一年の成果と課題、改善の方策を示したもの。

資料3:資料2の課題と改善策をもとに、目標・方策・評価の観点を5つの視点でまとめたもの。これを目標に、教職員が一年間取り組んでいく。

資料4:資料3の目標設定をもとに各グループ・年次・教科で目標と具体的な手立てを定めたもの。

(3)各グループからの報告

研究開発G

・研究開発Gについて

研究開発Gは、授業改善を行うグループ。生徒の自己肯定感を高め、認知の多様化を図り、基礎的な知識・技能の習得や学びに向かう力の育成に取り組んでいく。

・認知の取り組みについて

4月中旬:2年生を対象に入門講座を行った。

5月初旬:希望生徒を対象に、日常の出来事への捉え方を変える講演会を行った。

6月中旬:「運動と体と心」をテーマにした、為末大さんの講演会を予定している。

・授業見学月間にについて

5月を授業見学月間とした。自教科・他教科1つずつ見学し、得たことを共有。それらを日常の授業に役立てる。秋口に第2回を予定している。

・研究授業について

5/22(金)に、社会科と理科の教員が協力し、「宗教と科学」というテーマで、認知行動療法を取り入れた研究授業を行った。今後も教科横断的な取り組みを推進し、組織的な授業改善に努める。

学事情報G

・履修登録について

学事情報Gは、教育課程、成績処理を行うグループ。大幅に教職員が減る中で、いかに生徒の教育課程を守るかが重要。2年次における、来年度の履修登録においても、来年度どれくらいの授業を開講し、少ない人数でまわしていくかを相談しつつ、可能な限り生徒が希望する授業を開講できるよう努める。

・成績処理について

教職員の減少に伴い、非常勤の先生が増加している。ミスのない成績処理のために、マニュアル作成や、声掛けを行っていく。

・日本語指導の必要な生徒について

存県外国人生徒の中には、日本語指導の必要な生徒がいる。チームティーチングや、個別授業等の手厚い支援を、卒業するまで続けていく。

進路支援G

・昨年の卒業年次生の進路状況について

3月に行われた第3回学校運営協議会では、進路が決まっていない生徒が一名いると報告。

卒業式の前日に試験があり、無事就職。生徒全員の進路が決定した。

90.8%は希望する進路を実現。9.2%はそれぞれの夢に向かって準備中。

・今年の進路に向けた活動について

今年も80%の進路実現を目指すために支援をしていく。

履修登録のために、キャリアカウンセリングを進行中。どの道に進むのか、そのためにどの科目を取ればいいかについて、一人ひとりアドバイス中。

卒業年次生は、自分の夢に向けて動いている。現在、学校推薦での就職を希望している生徒が40人、進学を希望する生徒が130人ほど。昨日5月23日にも集会を行い、進路や来週の試験に対して気合を入れ直した。夏に向け、生徒と教員とが一丸となってがんばっていく。

生徒成長支援G

・生徒成長支援Gについて

規範意識やルール、マナーを身に着けさせることを目標としている。(資料4 参照)

生徒の自己有用感を向上させるため、丁寧な生徒指導、教育相談を実施する。

自己有用感とは、他者や集団の中で自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚のこと。

・ソーシャルスキルトレーニングについて

自己有用感を高めるため、スクールカウンセラーを主体に、ソーシャルスキルトレーニングを計画している。

内容は、感情のコントロールを行うことや相手にうまく気持ちを伝えることなど、人が社会で他者と関わる中で欠かせないスキルを身につけるトレーニングを行うというもの。

もともとは、発達障害の子どもに効果があるとされている。しかし、横浜旭陵高校には、診断がないが、適応上の困難さを有する生徒が多くいる。その困難さが問題行動の背景になっている場合もあるため、ソーシャルスキルトレーニングを通し、少しでも支援をしていきたい。

自主活動支援G

- ・自主活動支援Gについて

資料3:視点の4、地域等との協働 参照

- ・生徒会について

生徒会役員は、例年以上に活発。毎週水曜の定例会でも、いろいろな意見が出る。教員は生徒の意見を活かせるようサポートしていきたい。

- ・部活動について

生徒数が減った中で、徐々に卒業年次も引退し、より活動人数が減少している。教員が支えていきたい。

- ・行事について

生徒や職員の人数が減る中で、各行事をいかに実施するかを話し合っており、今年度は例年通りの形での実施を予定している。教員の協力を得ながら進めていきたい。同時に、来年度も見据えながら動いていく。

総務管理G

- ・総務管理Gの取り組み(資料2、3裏面)

安全安心な学校づくり、地域保護者との連携、事故不祥事の防止などに取り組むグループ(資料3:視点の5、学校管理、学校運営 参照)

- ・完校について

今年度、来年度は、学校を閉じるにあたり、県の財産をどう使うか、どう適切に返却するかを考えていく。職員は減っているが、力を合わせて完校までがんばっていく。

(4) <協議>『学校目標』および今年度の本校に期待する取組について

資料に目を通す時間(10:27～10:29)

【委員より】

(質問)

進路に向けて動き出しているとのことだが、具体的な状況確認を行いたい。生徒と保護者に向けた進路説明会等は実施したか。進路に向けた意識付けが、今の時期にどれぐらい進んでいるか。

(回答)

4月中旬土曜日に保護者向け進路説明会を行った。全体では今後のスケジュール、本校のルール(指定校、公募)について説明。その後、就職志望と、進学志望に分かれて説明。就職については、ハローワークの方に来ていただき7月からの求人票の解禁に向けた目標設定についてお話しいただいた。進学については、お金に関すること、奨学金についてお話しいただいた。

また、4月の校外学習にて、進学の生徒は大学、専門学校に赴き、就職の生徒は東神奈川のイオン、小机の崎陽軒(シウマイの工場)にて体験、見学。

校外学習の体験を通じ、毎週月曜のキャリアの時間では、分野別に分かれて指導を行っている。

来週は試験のため、再来週には進学希望の生徒には志望書の書き方、就職希望者は企業や職種の形態について教える。1ヶ月設けて指導し、7月に向けて準備していく。

【委員より】

(質問)

仕事の中で、軽度の知的障害、発達障害のある人とSST(ソーシャルスキルトレーニング)に取り組んでいる。学校でも同様の取り組みを行っていることに驚いた。どういう形で取り組むのか、結果の報告を期待。

(回答)

本校の生徒の中には、感情のコントロールができなかつたり、SNSに誹謗中傷の内容を書き込んだりと、相手にうまく感情を伝えられずに問題行動や不登校になる子がいる。それらの生徒に対し、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を行う。SCが作成した振り返りシートをもとに、教員とともに問題行動等を振り返り、シートを記入し、その内容をふまえて、スクールカウンセラーと月に一度程度面談を行っている。

【委員より】

(質問)

旭陵高校が今年24年目、ズーラシアも去年が開園25年目と同じ時を歩んできました。ズーオロジーで一緒に授業を行っていたので、あと二年間とさみしさを感じます。完校にむけ、現在いる生徒への対応がしっかりとしていて、これまでと変わらない授業の体制に安心しました。旭陵生がここに来てよかったです、望む進路につけた、と思えると良い。

現在日本語の支援が必要な生徒がいるという事で、何名ほどいますか？

(回答)

4名。内訳は、ネパールからが2名、中国からが2名。一昨年度の入試で入学し、多くの生徒が、海外から日本に来て3年未満の生徒。日本で学びたいと希望し、合格した子は6名いたが、2名は生活言語、学習言語が日本語で可能のため、支援は不要。

現在支援中の4名は、最初は日常会話も日本語では難しい子たちだったが、1年経ってだいぶ日本語でのコミュニケーションが取れるようになった。ただし、生活と学習で使う言語が違うため、引き続き支援の体制をとっている。

【委員より】

(質問)

授業を受けるとき、支援が必要な生徒は他の生徒と一緒に。

(回答)

一緒に授業の中で別の教員がつく授業もあれば別室で一人の教員が噛み砕いて指導をするなど、科目により対応は様々。

(意見)

生徒も先生も少なくなっている中でのフォローは大変だと思うが、引き続きお願ひします。

【委員より】

(意見)

2年次生に後輩がいない状況が一番心配。通常では想像できないこと。

以前、地域貢献デーでは一緒に清掃活動をし、自治会で行事の際には陸上競技部の男女5、6人が来てくれ、準備から片付けまでを手伝ってくれた。同様に、地域との連携が取れる場を設けられたらと考えている。

例えば、7月9日の「地球お助け隊記念日」には一斉清掃を行う。2ヶ月に1回は中堀川の清掃を行っており、毎月の日曜のうち3回は草を取っている。短時間でもいいので、ぜひ合同でやりたい。後輩がいないことで、人との関わりが薄くなってしまわないよう手伝いをしたい。

他にも、ズーラシアに遠足で行く小学生のお手伝いで地域の人がついて一緒に回ったりしているが、その際に高校生の希望があれば一緒に行えたら良い経験になるのではないか。

小学生は6年生になっても地域の人を覚えており、良いコミュニケーションが取れる。

現在2学年しかないが、生徒がそれを受け入れて工夫して頑張っていると思うので、何か手伝えることがあればお声がけください。

【委員より】

(意見)

奨学金について、取り組んでいない子に、もっと声がけしてほしい。一人ひとり個別に見るのは難しいが、進んでいない子に声掛けしてほしい。

【委員より】

(意見)

幼稚園:年に3・4回、高校生が来て自由に幼稚園児と遊ぶ。園児も若い子に喜んでおり、高校生も楽しい印象を持ってくれたはず。ぜひ就職につながってほしい。近年は保育者の募集を停止しているところが多く、関東近辺では20校ほどと危機的。就職してもすぐに退職せざるをえない現状がある。ブラックに見られるが、保育士になりたい子には支援をしたい。

大学:受験者数も減少。お金などで壁があっても、ぜひ行きたい子がいけるように。出張講義に行つても、大学に来てくれない。是非とも校外連携したい。

(5)事務連絡

・次回は令和8年3/7を予定

・再編統合について。旭高校の敷地を利用、だが本校がなくなるということではない。

新しい校名は、県立高校校名検討懇話会での決定。学校は案を提出する。1段階目は、まず学校関係者から広く募る。(学校運営協議会参加者のみでなく、本校関係者、生徒、PTA、生徒、教職員からも募る)

6/30までに二元コードを読み取り入力してほしい。電子機器の使用が難しければお声がけを。